

窓辺

自分磨き

まえだ
前田

しのぶ
忍

私は社会人として働きたがら大学院に通い、仕事と勉強を両立する生活を2年間続けたことがある。卒業後はローカルエリアを元気にする原動力になりたいと思おうようになり、岐阜県の地元企業の新規事業立ち上げを行った後、北海道のホテルの事業再生に参画することになった。

それぞれの時期で感じたことは、自分がやらなければいけないという使命感と、それを通じて自分自身の成長を期待する気持ちで

あった。このように、自分に投資するいわゆる「自分磨き」をできる限り実践してきたつもりだ。

「チャンスシンドローム」という言葉をご存じだろうか。「自分は実力もあり、運も兼ね備えているから必ずチャンスが巡ってくる」と信じ「待ちの姿勢」でいることをいう。

そのような姿勢の人には、おそらく自分が成長できるだけのチャンスは巡ってこないだろう。仮に訪れたとしても気付かずに通り

過ぎてしまうのが関の山。チャンスに対していつもアンテナを張り、継続的にその感度を磨き続けるという「自分磨き」を努力して行う人がチャンスをつかみ取ることができるのだと思う。

「毎日必ず新聞を読む」「1カ月に1冊本を読む」「英会話を習う」など自分磨きの方法はさまざま。ただし、自分磨きの方法は自分が決めなければいけない。自分に訪れるチャンスをつかみ取るために、将来の自分にとって今足りないものはないかを考える。特に若い社会人ほど、この思いを持ってほしいと思っている。

(大井川鉄道社長)